集義外書

脫論四

七

地

仁田
2760
8-7

早稲田大學圖書館
寄託者 内田文庫
寄託書第 一五〇 號
第 7 號
第 8 冊

門 ロ仁13
號 2760
巻 3-7

文泉堂

集義外書巻十三

窮理中

一朋友問。老荘書簡。其人の性名を云ずして。ただ名を死後に可言。生涯に吾名は書よのをとるハ同じ。人心惟危にして。又己失を不知。くるやうなるものなり。世俗にいふ。名のいさるハ。なほ生涯に人に勇名をとるハ。名のいさるハ死後に可言。生涯に人に勇名をとるハ。名のいさるハ死後に可言。生涯に人に勇名をとるハ。名のいさるハ死後に可言。

姓名とのせいもそ人は実虚なくハ後世よハ誹ハ
ら人を有まくい。都て当世乃そ一生とまゝ〳〵を
いそ〳〵今姓名をもとめさすれ。そ人は実後あ〳〵ハ。その
後をハ非うとをわらんや。大業の若れ。をかゝして
名誉あを残ハいハ。肖虚の人れ名をあをぞめ残ハい
ゆへ〳〵世人をもてもひいハ。不虚れまれ〳〵れ。大業の
まゝとい〳〵て。人乃名誉かめ上ハ。そ敷よハおとを
て。そ人のあさゝめ事中ハ。一向よ世ハれ人のわひるハ
よくハ。志乃わうもひ。我を信をる人とハ。同志者
名をもいひ。他人れ名をもあけるうよくハ。人乃
恵とかゝして。そ人の一生いとうるうハ。ぶく名ようは
らんをを神ふなり。恵をひいそらをてハ。ひとやすて

ふちをそ改へきかゝすきこのよハかくとふよりく人微う
くらかをわゝ改はれ新あはこのよハ者よの人をとゝくさ
ふ仁愛乃厚き処よて中ハ。
一朋友同志武乃を身代ようといき。異方を
身代ようをとゝのう人かよ。信をうく中ハいき。今ハ
内かうふあまりてうく信乃をもうゝく不見ようて
ハいさわゝなういあ〳〵の乃ようて中ハや　答云。あ
〳〵乃ハ世れ信乃玉名をとうくゝ信をれうるあて
中ハいて。そ人ハ不可学。まわゝの義をハ時
処のをとをてうるひ中ハ義ハ。自身れ分をとうさ
ふまをふハ。そ者ハ初乃信をを信りとうをハいて。人馬
信乃をとうるを者乃ようの中ハいて。まわゝ釈先祖より

ぬいきぬ。俄よ国法の軍役をあを
じとしてこれにて門戸をたもつるなり。
たまふくにて門戸を分代おを建めてよのはるるよく
い。男女ともふて地の門よあるも。数世代いみ分代紙人の
毎年いいくいハ。他方にもみてはいやみ法度して俄て
人ゆよ法度をたるハ。毒敵きしいなるふいあれいむ
うの人ち武を分代よあハをくわいとよせいの国是よ
あるをい。家人代多ハかくの人と彼やうもしも多の人
よ法ちうくれ四度い。法度を多ハくなるやうもし
も。法度をれをあと仕れ四度い。人がうてこしけう
らをちいうちるかの楽ハ毒四度い。人ハ氣力つをたゆ
へよ人よたちつを。法度をよつ。法度をいきくうて彼

弱あれるよちつこりきくうて。ちれくハ病をいくく氣力
を四度いて。人馬を法度をもちいうくい。義を法りて
軍役をうををいて。我物をもちうくを家の物をを役を
うをを敵をうをいくい。毒を非いをくをれくをれくの
はくをみあれ。毒ををいくも一毒の物を上より彼りうを
をいをくを毒の物をはくをを法。大樹をいを天のあを彼り
法りくを。ををはをよ西孫をれい。法度をハ世をれ国用
軍役よあ門りを法。人よやをかりをくをを人を毒法をひ毒
うを。法度ををををハ。裏加よ法度をきうをの。ををを不毒
をうををあくい。を家をを人地をくを中いあをハ。大名の恩
毒をりをを。を毒の分よを合をを。毒りをくして毒法
をふゆうくをを代をの分ををれいやをふあを

高人を論ず

一朋友問うをわきまえざる者あるべきやいなやの事

答云うの事門人はいとまなし　つねに

きんの。さわりのゆをゆかして。貢にとして。米ふもか
つく合とかちことのかちふ。名一人のあき人より和よう
いくなくハ。ひとりかとも五よりつもとそうとにもうすハ
ちう国。ゆ人て。米千石の貢よ立国
と。そ所人り二ゆんゆとて。我よりれて。一且利乃有ゆう
いくも。民のゆんきかまりり有ます。ちくのつりまめいくハ
不及ト。我おれ地をとうりてとうもとそれかの分別ゆく
て。ら法をとうり。海おめとゆとゆそうんというとて。ゆう
とゆ人ゆと。永い。一玉のたりまい一玉乃主の換ちりと
トのたりもハ天下れまの換ちりいかへれ且去ハ一人
を以天下と治ゆて。天下と一人よりとうふわ。ゆを
一玉を以。ゆ農乃欲を去ひりんや。町人りゆうくり乃

去ハ。ハ主ゆて。百人ゆ十人ゆ百人ゆ。ゆとりて。天下の
風俗を乱ト。ゆそよい。ゆ主ゆも。ゆわちくゆよ。いい
代去久ゆ去石ゆ。ゆも。ゆ主ゆ。ゆれよりて。ゆ主ゆ
ゆ分の武士ゆ人ゆ。ゆりて。ゆと。ゆ知い。ゆりゆ。ゆ歩
人ゆ。ゆゆ。ゆ人ゆ。ゆ知ゆ。ゆ人ゆ。ゆ人ゆ。ゆ
ゆて。ゆ主ゆ。ゆれ。ゆ主ゆ。ゆの。ゆを。ゆ
ゆすゆ人ゆ。ゆて。ゆ政ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆを
ゆゆゆい

一朋友間。ゆりゆ。ゆ。ゆ利ゆ換ゆ。ゆ。ゆ。ゆ日傭
の。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ

乃流を金千あまりとうけとりいてしが百あまり日傭取のうけとりれるものれれて。日傭よりハ百あまりなりていハ不遣ハ。日傭もかまきまき雇ハよ仕ハ。そこ人数を百人へきハ。へと。六千ばかりていハ不入ハ少人ばかりなく破損よ及ハ。ばつ。ハ日傭取一人ていハ。公義よハ千あまり六千金かさて。倍この出損のこなりハ。度くに国損も仕ハ。てを。ハ公中をしくくハ。武士の給まりを給付をれく。あくに面目乃用。こかくれたん。度乃外やみなくやくの。あてはえつきまして。日傭二十三十つあつを。出役。生方可入悦ハ。生方六千も入。千金可入よハ。千六百金を入ハて。和代破損なくハ。一旦大分ハ入のやくハ。ハも。なくなくハ。大分なるまりていハ。

武士なる者ハ。山川の地理あと。人れつしいやくハと功ハよ。なりハるまハ。なる給まりていハ。屋作をかけるもこ。をとれてハ。なりてハ。我方よかりなる事少人悦の要国なるやくハ。仕ハ。我方よかりなる事ハ。悦を不のハ。ばえつき。悦とハ。一日者ハ。日傭の者もあるべきと。貸を。なりて方をとをれ。今附狩。絶役者中の出役なるとハ。者結よ。あくに功ハ。己ハ。ゆへ。ゆへ。悦要国ハ。ハ。日傭ハ日。我と我方となりつをハ。ハ。者の人員とハ一をハを達ハ。なりよ。方くハ。なりよくハ。なりよくハ。ばくハ。やくハ。ハくハ。ハ。ハ。

ちり〳〵するらくい。沈の根きりおいそこと入こと云ふ
ものあるそこ生あるそこと云ふ物也沈乃あるとも水あり
てれこそ根のやうなくハ落ちる事切ゆへ也。然して
天下の百万とうをとうまさせくに武士ハ石垣きやうみ
ゆるとも。天下れ山川の沈理も。金銀米穀の運船も。
紙類れ百用と。諸町人乃ものこそみく住家まこう
仕い。武士ハ町人よりこうれくに。物こそ屋ん不知いこと
金銀ハ諸町人のもふあつまり。才知町人ものしいて。附宵
て机逆の不ふりこと出くいや。刀ものこそ紙の
字あるよりれこそくへくらくい。是ハ落うけとりこと初り
いこそ。ものもくはるに入れ有るるハ世中のきいこく。係乃
ものいて出来い。木のせとるるハ久しく切ものるるハな

ものふ入いこと社ものの作るハこうのゆるも初てよくい。金
銀乃多入るハ西ものりてハ天下れ四よ宵くいこと上結ものて
蘇れよ出来と武士乃ものれて工商と手知こ武士れ物り
行るもこそこいて堅固よ出来ものハ商ものこそ入やう
わくこと。早変ハこうけとりれまこもいてねよ物るるこそい
商の知ものやこれ附よ変ものれ附よ変宵赤の物をもれ知
一通とるこそりこ手ものそくこと分の職ものよ心を入こく。才力
をこそとのこと。天回しれるハ武士れこと知こ彼ものハ是
乃知よ出こうこと。ものるこそ乃知あくい。いまいよ是れるも
人の作りるこ小知ものい

一那友問。天文よりこく附変と知こもるハ。ぶこきるものあく
出産いや　云。ひこ前漢の書よ商くこ日月屋こもれ

と明とやいはるゝあり。是よりして世間乃氣不正ありて。
天災地夭多し。容星まれて帝位をうとるゝ事。星のひかり
さらさらといとるゝものあり。世の時ゆんこれをかけて云。日月
の光氏玄霓のごとくふとるゝ。容星のごとくなるものハ
天乃位をうかゝんとす。是いにしへの位なり。光の星ふしいとる者
ハ君の威をうゝふまんゝ。こゝして王莽ゝ代を乱とのゝ
あらしれ世乃災害よりゆゝ云。王莽ゝそにてとゝとうハゝん
とす。漢家のまゝくゝうゝ乱れ大名あり。何と義兵と発
して莽と孫をうゝや。皆ゝの云ゝ。時弱ゆしくも上
いまなり。莽ゝ悪逆をいくゝて兵氏とこすれ。莽ハ上乃た
たよあるまよりひゝくゝうとひくゝなり。漢の子孫ゝ家者
大名ゝもゝ。天下ゝみとるゝものあゝ。いんとゆしゝ。天下の

漢といゝまるゝ久しひさしけまハ変しかゝ。莽ゝ世氏逆風
をゆゝふゝもよいますゝハゝゝ家の義兵ハ都て逆逆とゆて
ゝゝ氏ゝ氏ゝてゝゝ人ゝゝみとるものゝ氏。大石と
いゝくゝいこをなとゝゝゝゝゝ人ゝゝハ兵をお
こゝゝ人ゝゝ氏ゝゝゝゝ莽ゝふゝ人。　問ゝゝハ莽孫ゝ天
下とゝゝ侍ゝん。　云。上のいまゝよりゝてゝゝ莽とおそれて
よゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。莽ゝ天下と奪いとゝ。天子氏璽綬と
ふきゝゝゝゝゝハ。孫ゝ莽をうゝゝとゝゝゝゝんや。漢家
のゝ孫ゝゝゝハ。氏ゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

もろもろのものの中に孤の虎乃社よりして出てくる。孤の虎乃
威とかるてく。君よりして我威の有りてそ。一且の
権威をおかす人のかゝるこまりぬそこよりはんとや思
ふらん。こゝに莽に逆道の如くして威をもさへ行ふ
是なり。天下を奪ひんとおもひて威をぬまは是なり
也非なり也。さるなりて人よりまれるこゝまんん
ハ。こゝ分の子孫乃をこゝろへくきりすとその
ひとんなり。何を権威と云へ。はしりて分をへつとりて天
下の人よりはせ。もてく分安く子孫さうやうなるやうの
てもすてても。はらうて威とおすを。是ハこゝを
害よりこゝ家もこゝなり。分安く子孫さうへ。名ばかはせよ
ふ乃とハこゝて。分分ゝ子孫こひ。是名とかうす事を

それ乃ゝ又こゝ法慧果出てこゝ。はの人賢ゝ四隅ゝ曰天道
ゆゝきを除く新をもうんとするゝ漢の世ハ。まゝ乃二
石徐衆なり天下大こゝ奏く風俗いやしく。こゝ除ハこゝ乃勢
なりしきりにてこゝ天下こゝ。こゝ乃ゝ沈溺し。
政をゝく事除をゝれるゝ。今のおよていなりかゝうんこゝ
ゝハ一度ハこゝ下新ゝ。ゝるゝきを除く新をもうんとゝ
ゝうんこゝ分十ゝとゝきをへゝ沈ゝこゝて王莽乱
をゝこゝ天下こゝ奪へ。完武帝漢の孫ゝこゝて民間ゝ
おゝこゝ。莽こゝ云ゝ悪人をゝこゝ退きゝ漢のおこゝる風俗
をゝゝこゝ。こゝ政をゝこゝ乃ゝこゝ漢家ゝ起きゝ。
こゝを後漢の初こゝ。ゝ二石徐衆治ゝ
一武帝ゝ乃ゝこゝの人及ゝこゝ。淮川沈中にゝこゝ乃

かゝひ石ゆ出るゆゑにいくやうにて仕来とゆりてゆゑにや。あ
ゆ石も板ハ大板へはゆわゝゝゝなるゆゑにや。大板の川口のゝ
なりにて。高野川乃末紀伊の若山ゆ川口ゝゝ作出ゆ川く
うもし海もあゝなり。あれゆゑひハ能作ゆゑとゆ物と
そ砂乃とりやゝ川のつもりやゝもあるゆゑきうゆみく出ゆゑにや。
とゆの作ゆそハ何とゆり砂ゆゑゆゑにや。作出の出ゆいるゆゑのよ
なるゆゑくとゆい　答云川ゆゑ砂とゆゑゆゑの出ゆゑふ
て自由とゆゑんとゆゑハ無切なるゆゑにくいまゝゝの食乃
ゆゑの縄を切ゆゑゝゝゝゝゆゑくいゆゑのゆゑゆゑの若くゆゑ
乃若ゆゑ仕切ゆゑゝゝ出砂のゆゑゆゑみゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ一
ゆゑよ海中に出砂ゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ川とゆゑゆゑ川口ゆゑゆゑゆゑ也。
ゆゑとゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ

中あとなり。中あハ大あとなり。大水ながれ流るゝ所を大海
と。国地家屋をうこかすもの。たゝ水のながれつよけ
れハ流をなす。たゝ水もに強けれハ川下となり。
川とハ。皆川乃ひりとて。ふるゝ悪たち。裏高国乃
三代のまゝ乃ひんとそハ。川こあるゝ。ふるゝあれ
るゝも。天下ひろく。ふるゝ。みて。猶を拾ふ。広の地理を
みるゝ。古法を不用故たち。その分て広川乃まゝ
ふるゝ。内ふすハ数十の内より。大数年より法玉れ川口の
亜流成ふるかゝ。　同今ふるゝ乃広く。ふるゝ法
度。て。第あれを。いとも。やうなり。入ふるゝ。ハ
ふれ。まゝや　云ふ。ふるゝ。ふるゝ。入ゝ。ふるゝ
ふるゝ。ふるゝ。ふ。今あふ。ハ。ハ。ハ。大海

ふ入ふ川あふふふふふ。ふ。ふ。

てゝしの口とゝしんじまの十石あまもをくにハゆうとゝうを
ねこさるハあゝ沢。あゝ山はこるゝ下橋あゝてゝしの口とせて
をくにおゝゝさんとゝせハあゝとハ水をゝゝ水をゝよりゝゝ
河のあつきゝねへけゝハ常の水あれゝゝしハ高しゝゝ高ゝ田
ハ河内の上田へ松石とハをつゝ。ゝ山ハ山ゝ
あゝをゝゝて。ゝ高れゝゝれハゝゝのゝゝつゝ出あゝ。今乃川
ゝゝ武町あゝ西ゝ三町あゝ西ゝ町ゝ一ゝい出ゝゝ
を堀乃あゝゝ紀ゝ度ゝゝ。今の堀ハしゝ堀ゆゝ
田あゝゝきゝゝ行ゝきゝ事をゝハ日傭のゝけ
ゝゝいゝ。堀のつきゝゝあゝ河ゝハ二十里ゝゝの新堀ゝ
方ゝて四千余畝ゝゝ法ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
つゝゝゝハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

置條の西川ゝゝ武町ゝゝて。大和河内の上田高槻ゝ
ゝゝ。ゝゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ。河ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
育ゝ。中の川沢田島ゝゝ河ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
大ゝゝ川ハの名ゝゝ石知ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆてとなるるハ川の砂つよくて高き地さらゆへよりて
に赤紫色をんとをしたる。吉野川の水ひとりて河のみはく
ふゆへなり。大和ハ河内和泉紀伊よりハ地形高くゆへ也。ひろ
しハ大和川ふとてしのぶ口ゆ一ときく。あれかよハさんとて
うしを切ていれ。あかよハさるれこるゝ川あるてなりぬ水あ
ハ水中とうりて高きよりて立田川も今ハ右のうり也。梅
てなのてくをんとをしかもて松の葉と切られもてゆか
とさしを　同云。湖水の色ゆ年あるみくゆ田作な
らて。ゆ口ゆ方面水面より高ゆ湖乃葉
をゆ折りをハ乃高く作つゝ切りゆ。もしうくさもぬ
面麦ゆ作ん　云大ゆ面麦ゆ出るゆん湖みれこうと
ゆハ一ゆ一夕のゆよあしゆ。ちう湖ハ天地りゆのてしの

口なり。ちう湖ゆちう湖の葉ゆ切るハ湖みゆ高ゆとうて流
川のみたきう湖みかるくゆ高ゆハ流川みくゆ。今の水
乃面ひゆ出し。彼岸ゆ高ゆきう多出来ゆ。梅くい麦
甲斐ゆ。湖みのかゆ年の地震ゆ地を
ゆりゆ川みうもつゆ。さゆ有ゆ。ゆ高乃水色ハ黄
ゆみ湖ゆ地面ゆうるし。大地震ゆふゆゆちつゆ事
みん古の白髪の毛ハ今ハ水中ゆ入ゆ居ゆとゆ入ゆ
ゆ氣ゆきくゆ絶ゆ。みゆ湖ゆ作ゆ毛ゆ流川乃みを
絶行をつゆ。ゆしうゆ。ゆ出ゆ方へ
流みれゆそのゆ。みゆ高ゆ紀を分ゆるゆハ人ゆるゆき
う。古人ハ河ゆあゆ。ゆ川乃地理ゆ黄色ゆる人ゆゆし
且ゆ川のゆゆゆしゆ。ゆ後ゆ川地ゆ古のゆ乃を

みこもの形ひきいまの人いうとかこけまいとそ問ふるか
く生付の器用もし撰ぶすこそふるとそ古人乃ちなけを
うるかんくしみく商人をこの利よかこさこそいつるちこう
人はあやうきうもこそ広くあまくなる石河のあよ入るす一
面くにさらあまいはりちひるのあるすして結加
といつるはちれ石和ありす上田の毎〇ちこう知めと川堀
の造作とあとの広人よこせて水とちれたこの本と
きこれ新本をこやしなはかなくなとまり河のふるく
あへしふくきうあとへうこう御制禁を出はへ水田用
の絞米を人こそのちれこの多けまいは新を買くこと
といふひまこれはのるこいとこ〇こうこれまこそ
はへし庚寅の歳とて仕相なれこそは。みは川ちへよよ

はくこ大坂をこよ新田多いつくこうこと伝ちこそはれはあ
うこへきうこはは日本はまるくこうこは米日本国中こそ
大和河内の上田といふ。古地を川よつてこと下に新田を
きんこと大かひこうこあり。古地よりもかまつくこ人川下
に新田をこれこれ川上の古地あくかこそひこうこうこ
ものはなこあくあり。すこて古地と比べて新田こうこ
るはは大小の拵差はいつへきこうはは悔くなかこく
きんこいふもやうこ広くこうこうこうこうこうこの砂は世この
はかあこのを拵あるまこくはへこ。やこ大和河内の上田
は永代をこうはいかは。大古こうこ人こうこつこれ拵世よみう拵
こへ。長こ人下の新田はやこ広くこそはこうこ
拵こへ

一武州荒川筋百姓共の儀ハ荒川ハ元ハ荒川ハ吾人共ハ新田
ゆえ　　云一乃沼あるのゆえ　古川のゆえ　古川ハ
用のくまハ用ひそれも大を願ふのゆえ　ふのゆえ
くまのみハ水掘も方ハ沼ハ今　山掘ハ出河の内乃ゆ掘を
ゆえ人きるハ易ゆえ　流の方掘乃ひゆ　山流をもちゆ
らてゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ
所ゆえ　流ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ
もゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ
ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ
の用ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ

一武州荒川筋の儀ハ元ハ荒川ハ吾人共ハ新田
ゆえ　　云一乃沼あるのゆえ　古川のゆえ　古川ハ
用のくまハ用ひそれも大を願ふのゆえ　ふのゆえ
くまのみハ水掘も方ハ沼ハ今　山掘ハ出河の内乃ゆ掘を
ゆえ人きるハ易ゆえ　流の方掘乃ひゆ　山流をもちゆ
らてゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ
所ゆえ　流ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ
もゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ
ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ
の用ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ　ゆえ

石もかゝ〳〵。十五万石より二万石とゝ仕るゆへ。先ゝ一二万石ずつ〳〵。世の乱れ出ハ其のまゝ田作をゝ〳〵ゆせ〇よ一度商もの抜ハ方〳〵けまた。明年ハうや〳〵なくれたゝうきを熟と〳〵。ゆ七〇よ一度の抜もハ抜やうゝる地より仕うゝすゝもゆ〳〵のこゝろ〳〵。ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

河内ノ天王寺ニ行ハ後ノ
經ノ教ノ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

是あれすれども紀伊國屋文左衛門ハ義と
いふて利をすてゝ人ハ皆根ハ富ひとしく利を
利とするゆへ人ハ皆富貴又ハ貧賤の間も多ハ利のミをもとめ
義を捨てをこなハ[illegible]人ハ多くハ[illegible]
なの私なり[illegible]
名小名も不仁の人ハ[illegible]
也ハ下と貴賤のおのゝ貨惜て入るものハ又惜く出のゆへ
必拙なるハ[illegible]
天下の衰微ハ[illegible]人ハ[illegible]天下衰微ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

乃法あり[illegible]僧ハ[illegible]
て割山[illegible]
をハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ハ神木とて松や榊の古地より生ずるなり。屋しろ社ばかりにてあるまし。社の造りかたよりうへ多くは屋しろ社にて日本れ古地ばかりにて。宮社の作ハ木多く用ひ日本を本国とあるなり。中国天竺乃大国にて作りしなり。唐土ハそのまゝ行く。日本の小国にて建るにてハ何乃ほとけ人ばかり造る僧法師乃所なり　同じくの世にて法師ばかりにて造りあるハ。ほとけ造りにて造りすなり。法ハ一向にあるなり。ほとけを造るといふとも。平元地を造るとこそ云ふ。云ふ所にてもて天地とて物をとすといふなり。物をのべらるハ。知るの義なり。人力にて造るにて地の数をのべらるハ。ねりのなり。世中の文字よりはるかに多く才よりはるかに多き才なり。知才と云ハ。天下国家政乃方より保ちる

才なり。知才より物なり。右乃作者ハ高く人をねらひ。作者ハ高く人をねらひ。うへ多くあるなり。根ハ人をねらひ。きよ物をねらひ。法をとく立てなり。お家とかたく堂寺とをとなくとハ。みな中国にて孔世とあるものハ。百人ひとりあり。中国天竺乃大国ゆへ。人よりとく移りしなり。日本ハ小国ゆへ。山地乃ごとくありなり。国土生まれる地ハ生れ山地乃力にて生まれなり。天子大将乃家大名士農工商ハ其役義者なり。其役者ハ其屋乃作なり。其用の叶ひ居なり。作者ハ其屋乃人なり。今お家の堂ハ本像と一河乃ごとくなり。ごとくなる人をとゝめぬ堂にて。宮殿方丈庫裏なりとなり。人もかきよ駆使地を建るゝ作なり。あるひハ彩色作なり。或ハ建出し。日本国中に毎々ごとくなるなり。

いるるものなくいへし。其山林を伐とるの時て紂へうくい。
大史るものなくゝ中事ハ四十〇ゝ百年ニ一度たるものなれハ。
何ゝ〻影変てと山乃つ[illegible]ものすハ[illegible]ものそれ
たいゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

軍ハ兵おうしてそ。そ一我つあくすあとハ乱世ハ
あるに。実ハ秀吉より今にてきく。そもそも奢ハ用く用く
に出しぬそとよ吉利文丹の御家譜出あく。往去の巣鶴多
堂ちのおいきる。日本開闢よりいまあるへくいたく去
やくあるを天下を執権あるハ。おそらく乱世くあへ。おそれた御面
家ハ天下と得るあいしあの法牙もよく。実と三男仁男て
きるい執権もあきへくまるいたいたいきる法を
ともこ林の力つきて。今ハたそきるのよあ法ち男
とにも兵然西垂よおそ法て私ちく吉法をつきのた
天下の根本をそふつきいて。数十の同ちりおしに今
政乃をいい高ちる筆と陣い法りそハ乱世くあくふ
へきよりあるるる。林乃あきるる。開闢よりいまか

きたあとあれく。乱世もあくしかんん乱世くあ法ハ公義をく
あれ兵ハ法ハ法より往法代ちあそハちく法をの天乃ハあくし
ちるるを往るん。堂ちハ軍法よやるとるれをハそれら
三変をいいんや。身をそのの天乃の出家た多ハ盗賊くあそ
方くあくるれ往るんよるものハ内るの乃食非人し
ちりてうせめ。世中我くに合あて陣屋の技ちる
よあるるし。堂ち往ふるるるる。百年もをへくな
のるくちちり川くちのるくあくあへ
一朋友同往去乃為るを。世中乱世くあるふていて。往去のと
ふるて不毒代災出来て乱へきる。天下の災害くあいるハ
往るや　云てるハ云ちる。水ハるるへふる流る理る
て。神明の報恩必往るれるも。ち往よ方乃のとの裁利乃

極よりあらるゝハたゞしの也。そこ行ハ元知めて
有るべし。世の始のあやまりてこそ行ハ元し繼ぎ式
極りのなり。上世の繼ぎ式十あり。七ハ行ハ元ハ持とゆゝめ
てこそ有とこハまゝ式乃用ゆるも抑ゆるハ平元ゝ
改道乃罪なり有る世中乱まゝ其法よる堂塔も焼き
僧を殺ひよるけるハかくなりに也。山川のあるよりはくを
なのつゝりと知ゝ抑ひあるゝくハ世乃中そこゝ乃理
とゝゝ。天地の原ゝ行ハ元ゝ。素隆の業そ
乱世ゝ知ゝ元ゝ乱世ゝ有ゝ法のゆ
ゝも有ゝりのなけるハ。乱世ゝ知ゝの法よりとそを
有ゝのゝみゝなの有ゝりゝこれゆへを生ゝりゝを知ゝ。
孟子乃語よも。聖賢の徳乃法ゝ。天下八百〇六百

〇ハ法ゝを〇も手元天下ハ聖賢のゝ（きゝの也世を
継て代ゝ治ゝるゝハ。天地廃ゝ有ゝるゝ。己ひんゝゝ樂
討ゝ元ゝ出ゝ有ゝ世中の変ハ行ハ元者とゝ
そこて。林川沢の神氣ゝ世中の変ハ行ハ元者とゝ
ゝれ有ゝ出ゝも出ゝ。或ハ相模入道のゝ有ゝる人
も出ゝ。或ハ足利家数代の内。義仁の乱乃ゝ有ゝ
ひゝ未なり

一朋友同。王代の行ハ元ゝ変ゝ。今に近ゝ敵ハ近江
の内ゝ。領知仕ゝ。東大ゝ。興福ゝ。天武峯。吉野法師ゝ
邪ゝ。ゝの大名ゝ。ゝ。ゝ。

てハ寺とてよハくるしよかくこより居ハゆへ。一ある教ハ
かくりよハ今れてくに所在ハ山ひとく入まてとそうちハ
なくいきぶいさんなく大分初ハれいにも。ばうりハ場をよ
て。そもそいたいものハ時信ましそれをハちをうてを。場をを
敵しよあほうをみく。銀和のをハ法ひれまよい。敵ハよ居いも
乃ものほうをうものハ小姓若堂六人ありて場をハかい。今ハ所屋
六屋敷と彩をかく〈をれ百姓と地を並てくしとを並ひ。
ををよハくれをしてよりを卓教よちハいて。敵ハよち
教減いかく。まれくれ山林のち教をて入あいハくい。所を家
よ遠領ハる教百万乃寺ハひてよりを場ハる分をていハ今ハ
屋敷の場屋をて寺領ましてを入こみ行ハ初ハををハを
ハる行ハも国ハ所ハくに是ハの山林ハ。十ヵ九ハ寺内ハ

いをを上田畠をはかりをを。大よりハいてをはあえ
ハよ十信仕ハくい。扶ひしの分をハ扶りくても。女人酒者と
いをいてををさハ今れまらもいをすい。寺てよ今ハをを
もハをはいをいをくいをををいい　同世ハの場くハ林
とをする。結ハのをいハあくい。禁中ハ家れハ屋作もあを
ハをふをくをあハくい。今ハをハ屋敷をふハ家ハ。客人
分ハくハ屋ををれいハて。れ果の法ふ親ハををハふ
ハ屋ハいく。貴家ハて風流よハ市在宵度ハよい。ハ家を
屋作も古風ハをを作ハ。今れ相よハあ新もくい。をと
本具ハき茶をくひハ今のやふハ宵ましくいハ。ハを茶
ひをあをハを家をを作地の者ををすハいをハ海ハを
ハをハい。今ハあをしき茶よ居ハハ移をハをすい。ハ昔ハ

何よ成ともまへてはうつ。絵紙よりぬれ入くてはうつ。其入物
ハかつてうるとも。今ハかるとそのあれ兼おぬおのと紙くさて
ぬくぬくてをいくるぬやそれいしかれし墓のはいえハ
うりを鞠麦ゑすわく宵へくい　えそれくと鞠麦事して
いへとも。梯子中并弓家瓦ハそく京紙は一所すてに大雑紙
ゑもゑすくれ義よいむ弓ゑもゑもよくは合点ゑゑ
いる。瓦作ゑてハいふもうう繽事ゑよ。礼義のうさハかこそ
うふまりてはうやましいなうへくい。家ゑも今れ漉中の
鞠麦矢倉多門天ゑ瓦紙作ハもゑぬおよい。ゑハ歌よれ
まゑ也門ハ大なるゑすてひくくゑてくへらもいへく。火
矢を射うをて焼立ゑう門より火出るゑ。のして火とは
いゑ仕いく。狭ゑ城門すてのきゑ下ゑるゑ。ゑハ歌せ上下ゑる焼

死ゑくい。何ゑすその時ハくゑつて小屋ゑけゑとくきゑくハけう
よりて大儀なるくゑ。器の費を大なるこゑ也。士屋敷ハ作ゑすの
鞠麦数多ハ江戸ゑうる也。ゑれ法士ハ今ハ中く繕へきカ
りゑくそれハさてくそれゑくれた。修理をくきやう
をれ。ゑゑ也ゑの作よゑれた。其紀潮作ゑ仕いた。
これゑまて伝紀出来。ゑゑ多一代ハ上はおようをゑたの代
まて遠ゑ及い。百姓ハなをく困窮ゑくいへく。屋作ハ秋
乃天入ゑゑぬゑのゑ也所人も留てうひこみ仕いゑとの
ゑのハ屋作者いへとも。これを数ゑく。間はゑ弓十弓のゑ小
ていへく。大方ゑくゑふなゑそ。ゑ家の言ちハ公儀よりれは
沙汰を鞠麦ゑゑれた。それ千ゑう一ゑていい。山城の芸漉中
治郎ゑうゑふくも。ゑ六十ゑ以来の大小ををゑゑして。一

〇れちの修理建立門堂式ろうて三千貫目てハ入るきと
ゝハ。右小堂えてらちハ一寺ともそなへぬとゝ分てハ千貫目二
千貫目かとつゝいてあ〇ハなしれとゝいハ。間よハ如新ちれ大仏
乃御宮のなゝゝゝ拵なるゝ出来仕ハさのゝ大なるやうよハ
実ゝ〇れ。南〇東〇よ立ハ新ちよさ入ゝ〇れく仕舞ハた
千貫目ハ入るきゝゝハ。今二三ケちの寺所国中よ建ハあも。
合ゝ千貫目ハ入ゝゝハ。ハ三百ケちの入用なるとあくゝを。三
十万石修の城ゝれ古屋敷ハ。不残修理して五十〇も堂国
なるゝゝて入ハ。ちゝれく山城中乃ちよ。五千貫目はくハ
毎〇入つゝりよハ。ハ城ゝ江戸大坂城の多ゝと
ありて。一〇乃堂ちの入ゝよてハ。二十ケ国の古屋敷ハ堂国
よてあハ。三〇あくハ国ゝ入ゝゝるてゝハ。六〇ゝてハゝゝ下れ所

人百姓の建立人乃家のゝゝハ修理てあハ。右ハ法りよきゝ
ゝゝつゝりてゝハ。色々の騒費れ去ゝゝ紀よのきて毎
年ゝ〇五千年ゝ間。天下とゝゝゝゝゝハ日本れひゝ
きとゝ入ゝゝ。五千〇の乃ゝよひゝゝと裏徴仕ハゝ。
ゝゝゝの費ハ有道乃世よハなれるゝゝゝゝてハゝ
ゝなるゝゝゝハ。ゝゝゝ大きゝんとゝ立国とゝゝ。仏法の安
楽ゝ極ゝゝ元ゝゝれゝ。右利支丹れ邪宗撃出来
て。仏者の者ハやまれなり。唐僧来ゝ大ち多建ゝさゝね。
是ゝゝゝ仁君忠臣ゝて。ハ弁ハ入ゝ。ハ一乃事除乃ゝと
あきゝゝゝふゝゝゝて。ハ世中のはゝくゝきゝゝハなくハ。ハ
大石仏玄我乃僧あるゝゝ仏法乗無れ法をゝんゝゝと祈
ゝハ。上書ゝゝゝゝゝて武書よゝて伝ゝ。五百〇ハゝゝ玄

佛ゑのゝ乃ゑハ乃ゑ乃ゑ乃ゑ

一或問。人の知らるゝものとて。我も能とおもふものとあるに。役人ととれば。無くおもひらるゝ事分あるは。いかゝとて。大方三分一か。多分一分にて。人事とは。いはゞ。まことに多くあるべき事有つゝ。尚ほ。多くは。如何。

云一。人の人々。役人とされば。おのづから。人ならぬ。人の。多くは。人の。才の。浮ぬとは。十分よりくらも。才の。知らるゝ。とるゝ。わづらひ。然に。二。人は。役人。多利根。とも。聊。とは。ものなれば。人は。志。あるべし。

又。人。人。武。世。多。有。人。人。事。此。ならず。世。者。聊。なりて。方。とは。ども。人。乃。徒。人。あるべし。今。世。人。人。問。を。聊。とれば。下。知。る。而。世。人。の。情。たるべし。

それ。人は。世。の。人。人。人

道ハ。万ことにをくきうてい。下とめ下ゑされハ国郡もあるべし。
くらめ二三〇代をもまちたゆゑ。永代をしやくこうなり。
天皇も各一時のくらゐなくてハ。本業之時乃生長はなく
さかうこと

一大国の郡主ゑと成ること云。今までその代官ゑ代ゑ。猥
しきこと多出来いる。神ちう高麗ゑ付とゐはべきこと
てゝに法くハ郡ちうのよい。答云。主人一人にて諸
いハそれ能いりん。相応あること也。今までその代ゑ代を
かゝるいへ。事不審ゑ主人一人郡ゑなされいり
郡ゑ数へくいゑ。ちうおまゑの内ゑ法公出来。代官ゑ代氣
ちみゝへくいる。郡中ゑ大小ちみく事ゑ高麗ゑ
ちうてハ法ちうまゑりのよい先行のもゑ前くはくいゑ

ちうこい方へくいゑ。郡代ゑ法ちうまゑ
神ちう主人の内ゑ。諸ちうハきゑ内主方へくいゑ。扱金銭は
て法ちうちうまゑ。何方ゑ承ゑ。郡方ちう
人神ハ法いゑ。行ゑ乱ゑ。ゑ人ハ法ちうハ法ちうハ法いゑ
法を行ること人ゑ同しくいゑ。奉主ハ必用石ゑ。用ちうされハ
ち行ん。金銭出来。金銭乃ちうハ行く金銭ゑ
ちうゑ。ちうハ奉公ちうゑ法ちうちうゑ。ちうゑ
金銭乃儀を行く法行ちう。人の物ゑちうゑ用主
ちうハ。ゑ代ゑ代乃仕ゑ事ゑ。郡ちう事ゑ
法ちうゑ人ハちうけねちうハ。一旦ハちうゑ法ちうねと
ちうちう行ちう主ゑ内ちう内主ちうゑ。郡中乃儀ゑ
一旦のかまゑハ。ちうゑ。内を行く取ちうゑよい

一朋友問せしまゝに答ていはく。廉院殿と秀吉公の治世とを一まいみよりなしがたし。其過てはいや云廉院殿と秀吉公の治乃世ハ日本の國狹くをさめいかゝ。乃ちこれ人乃耳目よハ一まいゆゑ行ねいゆゑ乃世とゝいハ。日本れ世廣くをさめたやうにあるゆゑ。百ゝ人ゝをくみえ天氣よりかんらくをくゝゆゑ百天ゝ人よりハ晴天の者よりハ世中ゆゝふ治ゝをすゝるれて。物とかとてきるゝゝて。人乃の礼儀よ乃ふゝもの也。

五代の世成ゝをれ。りゝ〳〵まゝ衣冠の制。四樂の作をゝ乃ひよりを。人乃れ文武の法いつよ及を。備乃得乃れ法まて正しいゝ。世中をすゝゆゝふをて。百ゝ人や。至治乃世をて世中いゝゝ治ゝゝる百代。一まいり

なれゝ。なれゝ。なれゝ。いやゝそゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝ

ちさかれとよ。軍中にくハたゝ
カハしつゝけきハ。ゝ。ゝ。ゝ

ハむかちゃ。よく吟味をされた。松綱さすることハ十よ一百より
二三かゝてハちがりのそれ。今ハそれ味をたく松綱まで
ゆるかゝふ吟味仕いてゝも。石原の家出来れ(て)。金を非と
いひもけをきんさあるよ松綱の事ハ知
たらゝ。さすがに我ちまつもひさるる。あり。善と人情
河内のとそを其ゝ分のやうにかるゝぬると知川。松之の
質事よのときハ松綱のかりとゝひつて金を非かつて
ゝひさゝかりそひく神ハこつをれも。別義なけをハ法才
くゝるひさりて沙ほよい神罰をたれかちとか
かゝりゝ。ひけるれを松綱松之も町ゝ。酒を春よ
もゝしゝとゝを。老宮くゝハ情くゝと。一言くゝよいハきく
人を信をれ。つ人もとそれを。そ皆人よとてる人の神と者

しゝ行ゝくゝ。ゝゝらに松綱を。ゝゝり起れるを。松綱さすほよ
き義よゝする。ゝよハ神ハ非礼とゝを法ゝ乃ゝ。照
覚ハたれを。人ハ其神乃照覚ゝ。ゝたれのそれ
ゝハるをれハひさをれかゝらに照覚たれとゝ
罰がきよ沖ゝしゝあくゝ。沖弟に神と慢ゝ。ゝゝそゝ
成とて行ゝ。我ゝゝりかゝれ松綱よ助ゝく。神乃照覚
あゝるゝあを。ゝたれゝく松綱言松綱をれゝゝ形と罰ゝり
あゝるゝあを。ゝよのゝゝれゝひゝを一度ゝて神のかゝ法ゝ松綱
祠ゝを教ゝくゝけりゝて神罰ゝたゝてゝるゝ。ゝよ海ゝく
ゝれゝゝ。ゝ行ゝ人を。ゝゝよかゝゝゝるゝれて松綱さ
ゝる人ゝる人ゝゝ。ゝよハ冥加よゝたゝ。ゝゝの也松綱さ
ゝゝ後ハ法味ゝ人きゝるゝゝゝと吟味ゝれ

堅剛をうつしよぬるとうたれて今のうつわの乃樂
須をとあきとハ行ハ人力ハ不及所よ可教堅剛な
まへ人力の乃ふ所ハさをぬ乃卯也極ものよ教主へきの
なり。吾ものよ行く神よハさしくうるれてけるを知て
い。神文を厚ものと義なくてハ武士の乃ハをぬなり
朋友同俗物ハ唐より渡らとと日本ハ知てをへ人
きとりたるを　云今の分ふく唐和とより行くハ薬
日本知をを五して。後人逆恵に乃ふへ一を殿ハ民乃加ら
く行るゆへよ。女を女乃つくるなをて。男のうさに
も偽へ。女ををかさしへきいとなを。女ハ女ものをつと
ひるかくふ世中ゆくくとぬ行くへハと知くく端よ素を
極を也。婦人よ委さをく。俗婦の多生をとるくよせハ日な

りの西をてハ行らてをかき行へきや。をくく素のく唐ら素
後ハりよふく用ををし行へりてりるも改をくくたるこハ
國云ふををへきなり
一所反同。まれるの左ものよ知ふ老人を。商代の大名れ中ま
人ハれひる人ハ学ハとあをくくハいへをこと人ハ大ハ学をて。
とをくくよくハ学をくくハて下れ改乃をふあのりるとを
り害ものしいまの人ハをくくよ和よハあ所をくきとハい。樂
のハハ。後をて人ハれひる人ハるれも。後ものくよ悪りる
へきとハくくしれなる後よをねハをくハいへ。後をよハとくく伝
根よくくきをあり。ハりをて。ハ後をよ知くくハとくくれも人の
後をを氣質ハ学をる人ハ。唐ハ知よ氣を知るくをてハふけ
ををくも。湯をふくく少氣ををくくしハ少氣乃後ハ

礼をなすべし。今より後の人、ものを礼をなすべしとなり。
ものをなすべきものなり。窮理を尊ぶべし。窮理明らかなる
ならば、今より後の人、ものを信ずべきかなり。我いまの世
の人、乾坤ハ初めなく乃人、ものよりハ始なくして始なく
なる孫乃つき。国郡のものなるものハ、ものなるものなり。日
本第一の始ハ聖徳太子なり。これ代々の孫なるべし。
まことのものなるものハ、未来永劫の人、ものを教ゆべし。乾坤ハ始なく
ものなり。そもそも目前にて、ハ仏者なり中納言殿なり。世中なる
つくりて目蓮宗に帰依せり。これ、ものの仏法なり。ものなるものと
なるべし。今、ものなる大名ハ、ものなるものなり。その
仏法乾坤なり。礼なるものなり。国民なるものなり。世中なる
なり。是皆亡国乃おこなりと。我ものハ仏法なりなる

ものなるべし。仏法の罪なるものなり。ものなるべし。
凡人ハ、ものなるべし。ハ、ものなるべし。乃罪なるものなり。
ものなるべし。国郡なるものなり。仏者なるものなり。
ものなるべし。仏者なるものなり。第一なるものなり。力を
つくべし。ものなるものなり。平人なるものなり。
ものなるべし。法乃罪なるべし。仏者なるべし。
ものなるべし。天のあるべし。積悪の報なるべし。
ものなるべし。ものなるべし。ものなるべし。
ものなるべし。ものなるべし。ものなるべし。
ものなるべし。ものなるべし。ものなるべし。
ものなるべし。ものなるべし。ものなるべし。

一朋友問曰、執權ハ小分なるゆえと承いへども、代りて今ハ事多く国庫に入ル。中分ハ倍金も出ずくばきうきうに成ル。ハ貧をなしゝハ国家の多をのぞうゝ跡をうかゝ物ハ多くいりんや　云ひ〻執權職乃人ハ米金まで稼と称して、知行なれと称りきゝ。さて如何ゝ国家ハ下ハ多分ハ人ハ城も所もなくいあまとハ都てさまゝけ多くいあ。能日分代をいとす。それでも賢者若人をあを称いはゝ。中分一代きりの稼ゝ　問ゝ子孫の中ハ多くいや　云賢者ハ時を助ゝ多ハ有て。子孫ハ稼を称ゝ成ハなくいゝ。孫ゝも一代きりの稼ゝ。ゆゝゝ多まり。孫ハ多くゝ家中をなすゝ。時ハ東の主ゝゝゝゝ。

稼あるゝいなゝ。子孫ハ二度ハ一類まで。もすくれいゝ。地より乃乃分ハ代ゝ国家ハ子にゆゝて。中分ハ一代きりの稼ゝ。稼を受ゝゝ。国郡も賞稼をゝ稼ゝゝゝ。古今の中ハ多くゝ稼ハ時ゝゝゝのゝいゝ。執權乃人ハ代ゝ城下家中なゝ大稼ハ中分ゆゝ。小其公卿ゝゝの外ハ多くゝ。出類ハ的地なゝ。ゝゝ多ゝゝ代ゝ。それハ代ゝ人ありてゝ。あゝゝゝゝ代ゝ。ハ浪分ハ多くゝゆゝゝのゝい。

一朋友問曰、中ハ氏命を中ハ代ゝ出て世ハ武士の氏命ハ人ゝ乱て。ゝゝゝゝ。名字交氏ゝ名字ゝも。推ゝゝ乃人ゝ中ハ。中ハ氏系ハ名字人ゝいゝも。度ゝの乱世ゝ其系ハいゝゝゝゝゝゝゝゝ。氏

なれ人ら今あるものも者くさを人きれ物をしく。○氏系譜つり出りいい学文をと教これいて。何方へはをてけいりんもまいて
いた大系譜としてあるも甚大系譜としてあるとその系譜へ能入
たい所とも考れたるも。日本の古氏れ姓と。天神の姓と多く
みるとれ。みとるる人乃居をつくりて。節目くしよ宮職
知りあるへ人をへ。人居いよりもれも幸ふ相い人法方方知次
才にあを結へ。人居よさるうすあり。そもの系ハ何とも人
きるれるそいりんや　云日本の古ハ浮平放棄をして神
よられはをの中きへ人の中にて。紙人ら考しして友後を
あるへ才多あるれるへ。氏の姓乃中よ
才知の可能あるといを結くして下れるを命くしの人れ友後
とを用きを。知りをあるへ人をを後をはしるる乃。郷系を

孫をとをされ。功あるよハ全部をその時乃農民多れり氏民
乃姓をれ先徳を才も後をて。天神れ孫の中にをまれなる
貴族あるとハ天のゆるをる結なるる所よ。天子より姓と結ハ
つて。神くて神乃孫より姓を准しの也。也ハ則其人よ屋神の徳
なる所よ。也人姓祖とをれるとよ。天神のはり有ても。粗なる人よ
て庶人れ業をしてハをしく庶人よりて世をれハ姓と知
て。氏民よとれ姓をあるとを。貴族乃子孫出系譜をまてハあをるれと。
也とれ士と名付て庶人の中れ氏結るる也ハ。これ時ハ不徳
の結しきとの友信とけるとす。士の風俗ハ如何。也ハ
れてよる。不徳すても尚先滅才覚あれハ結しき者もるれ人
れよりはるり。知より何をもるねいやき知るり時の幸ならる者
るれハはをしきるとも恥ををすとして國系の風俗とみさを

つとめ家ハ氏筋のよしみくてぷ者ハ何とても其人の
幸にひろまりぐ人ハ不才不徳なれハ筋もなき者ハ家人
なとゝ云ふ人に大分よりなる所也不才不徳のものも幼年位と
ゝ人ぐ親の代の屋敷にもふさゝて相を執と其者とゆしまれ
ふあやまちより世中日くに悪敷ぬ人不知不才の人とても筋目
次第にとつられてハゆゆれ家也人ハ才知学問にすぐれてハ不叶
物或ハ家むの家をあてぷ人ハ生まれ出る者ハ
ワ人幸あるべきてけるきよ必月のおれ才見者ぷけつゝ者
ゝて人よりいそれなとゝれ代実ハ不徳ものゝ者ハ
人の位なとゝなぐ其出の士ハ人ものゝ位ハ屋敷ハ幸なとゝ
小姓なとゝれハ主ハ人あるゝれ不知よりつき給なとゝれ家
千万よりふも理也人ゝ氏筋もなぐ天ゆゝ人ゆゝとゝハ非

も家ハ人ゝ氏ハ氏筋ハ人ものゝ位ハ不知家ハ人ものゝ位ハ
ぐ傍よ化してゝとうふものなり

一朋友同ぶ家ハ肩衣袴の位衣きるべきる不ハ法者ハ衣冠な
とハ位くのあるきも将衣ゝてあるきの人ハきる也とゝ人位ハ
ぬ無ゝよ位ハいぐ　云けまとハ位ぐ位也今代家ゝてハ無
ぐ位ゝる也位田藏田とゝ地方ゝ位ハ位ハ代の表位ゝ人ハ屋敷ふ代家
ありきも物衣ハ代表位ゝて家ハ家ゝてのあるハ物衣ありきハうち
家ゝ位ハ衣ゝ位ゝ物ゝて先ゝてきる物ゝ如ゝ位ハ物衣
きゝてハ家也ゝてなけゝハ家ゝ位ハ位ハ位ハ物ゝ位ハ御築地の
門二所三所ハ歩行ゝてぬ所ゝ所ゝ位ハ位ハ物衣ゝて歩行
あるハ宮門の門家ゝあるゝ物ゝ如ゝ去つきゝて位ハ一位ゝ者の物ゝ位
なの去ゝ家ハ門ゝ出ゝ位ゝ門位ゝ門ゝ位ゝ位ゝ

の風俗はすべてかくのごとくなれども今のはそのかよわきの
甚しき人輿にのるべき者にて昔和漢よりの名行をいかにかは
しるべきやかくのごとくなれば　同治八年十月出案少
万軍法の方も今はかくのごとくなれば　云中く
今はかくのごとくなれば　先者の和やをいかにかはしるべき
名行はいかにかはしるべきにて仕べし　ちなんといふべき者にて
そもそもかくのごとくなれば　諸国にいかにかはしるべき
べし　それよりは人々は制法をとるべきなり　其公はか
らは必ずゆるすべきなれば　そこにふくそうなり

集義外書卷十四終